



「暑さから牛を守る！」

いよいよ夏到来！今年の夏は「猛暑」になると予想されています。暑さのピークは7月下旬から8月上旬で、9月も残暑が厳しいそうです。人の熱中症対策はもちろんですが、牛の対策もいつも以上に力を入れなければなりません。和牛は乳牛より暑さに強いと言われてはいますが、暑くてさっぱり種が付かない...とか、熱中症で子牛を死なせてしまった...とかという声を耳にする頻度が年々増しているように感じます。

そこで、今号は「暑さ対策」のポイントをまとめます。暑い夏でもしっかり生ませて、しっかり育て、立派に出荷できるよう対策をはじめましょう！

< 和牛にとっての快適温度は25℃以下 >

<p>▶ 快適 15～25℃ 体温維持エネルギーが最小</p>	<p>▶ 暑い 25～30℃ 体温調節できる限界</p>	<p>▶ 苦しい 30℃～ 体温上昇</p>
--	---	---------------------------------------

和牛でも25℃を超えると生産性に影響が出ます。まだ大丈夫！と思わず暑熱対策は早めの実施を。

< 暑いときの牛の行動の変化 と 生産性への影響 >

		快適	暑い	苦しい	影響
横臥時間		—	減少	減少	①
起立時間		—	増加	増加	①
採食量		—	減少	食べない	②
心拍数 (回/分)	成牛	60～90	100以上	120以上	③
	子牛	90～120	130以上	140以上	
呼吸数 (回/分)	成牛	25前後	40以上	80以上 開口呼吸	③
	子牛	35前後	60以上	120以上	
体温 (℃)	成牛	38.0～39.0	39.0以上	39.5以上	③
	子牛	38.5～39.5	39.5以上	39.9以上	
よだれ		少々	流す	大量に流す	③

①蹄(ツメ)や肢の病気が増える
→暑くなると、横にならず立っていることが増えます。立っている方が風に当たる体表面積が多く、涼しく感じるからです。しかし、本来、横になることが多い牛が立ってばかりいると**肢への血流が減りダメージを受けます**。肢が痛いと言わなくなり、**採食量も減ります**。

②エネルギーが不足する
→牛は第1胃という大きな発酵槽を持っています。エサを分解するとき熱を発生するカイロのようなものです。暑いとき、牛は、**自ら食べるエサの量を減らして**、発酵熱を抑え、体温上昇を防ごうとします。

③エネルギーを余分に消費する
→食べられないのに、エネルギー消費が増える→ますますエネルギー不足になる→**悪循環に陥ります**。

「快適なとき = 正常時」の牛の状態を良く観察し知っておくことはとても大事です。異常を早期に発見でき、早期に対処することで重症にならなくて済みます。これは暑熱の話だけに限りません。

一度受けた暑熱の影響は、長く引きずり、じわじわと経営を圧迫します。



暑熱の影響を抑える対策

しっかりと対策して暑さを乗り切りましょう！

環境の改善

(目的：熱を逃がす)

✓通風

換気扇や扇風機の設置

✓輻射熱を防ぐ

屋根に寒冷紗を設置

(1枚より2枚重ねて効果アップ) [写真A]

屋根を白色に [写真B]

屋根裏に寒冷紗 (遮熱シート)

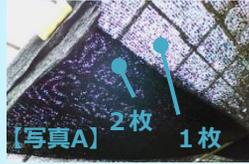
屋根に散水

✓直射日光を防ぐ

寒冷紗の設置 [写真C]

✓毛刈り

全身の毛を短く刈ると体感温度0.5℃下がる
分娩前後の牛を優先的に



飼養管理の改善

(目的：エサを一口でも多く食べさせる)

✓飼料

給与回数、哺乳回数を増やす

エサ寄せ回数を増やす

早朝や夜間など涼しい時間帯に給与する

粗飼料は質と嗜好性の良いものを
(乾草よりサイレージがおすすめ)

粗飼料は5cm以下に細断する

✓水 (常温で)

水槽は清潔に保つ [写真D]

新鮮な水を常時十分飲めるように

✓ミネラル

ビタミン、ミネラルの増給

(普段の2～5割増やす)

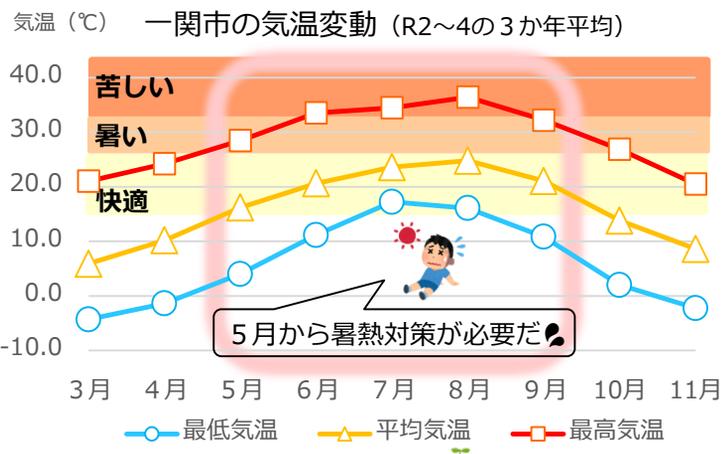
飼槽に重曹をおく (自由採食)



効果的な通風

- 風は牛の肩から首に当てる
→この部位は最も汗腺が多く涼しく感じる
- 風力を上げる
→換気扇の台数を増やす
換気扇を掃除し、ほこりやクモの巣を取り払う
- なるべく冷風を取り込む
→牛舎に隣接する林や山がある場合はそちらを風上に
隣接する林等がない場合は北側を風上に
- 通風は夜間も継続
→日中に上がった体温を翌朝までにしっかり下げる

風速1m/秒増すと体感温度が6℃下がる
2m/秒なら8.5℃下がる



《子牛を大きく育てよう!》～岩手県肉用牛飼養管理マニュアルから～



○ 分娩介助について

分娩の経過時間により、介助の判断をしましょう。無理な介助・早すぎる牽引は、難産の誘発や産道の損傷、胎児の呼吸不全など、母子ともに事故が起きるリスクを高めます。「いつもと違う、異常かな?」と感じた場合には、獣医師に往診を依頼しましょう。



図 正常なお産の流れ

- ### 分娩異常が疑われる目安
- 陣痛開始後、6時間経っても破水しない
 - 1次破水後、1時間経っても足胞が現れない
 - 足胞出現後、経産牛で1時間、初産牛で2時間経っても生まれない
 - 胎子娩出前に出血が見られる

最後に

＜子牛＞免疫や肺の機能が未熟なため、暑熱ストレスは大きな負担になり、短時間のうちに重症化することもあります。観察はこまめに！確実に！

お問い合わせ 奥州農業改良普及センター 0197-35-8451
一関農業改良普及センター 0191-52-4961

